

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



じゃがいもいっぱいだー

春が来る前に種芋を植えて育てたじゃがいもの収穫。手をシャベルのようにして掘ったらじゃがいもが見えた。「先生、掘れたよー。こんなにでっかいー！」「おっきいのもちっちゃいのもあるー。」とあちこちから歓声が上がる。たらいが3つ、大中小とまずは分別して入れた後に、「いくつあるか、数えよう遊び」が始まった。



保育者の援助と環境構成

子どもたちはじゃがいもがたくさん掘れたら、じゃがいもの数や大きさに関心を示すことが予想されたので、10個単位で数えられる10個のマスを作ってみました。マスには上から『1いち』『2に』と数や文字も入れてあります。並べたマスの横に更にじゃがいもを並べていき、大きいじゃがいもや、中くらいのじゃがいもの数を、みんなで数える遊びにつながっていきました。



お花屋さんです！

折り紙で思い思いに折って遊んでいる。一人の子が、お花を折り、周りの友達も折り始めた。たくさん折りながら「お花屋さんができるね。」ということになった。机に並んでいるのはお花の包み紙。お店の奥に案内され、自分で花を摘むことができる。「お花屋さんって分かったら、お客さんいっぱい来てくれるんじゃない！」と、看板を作りたくなるが、平仮名はまだ書けないので、先生が鉛筆で薄く書いたものを、なぞってクレヨンで仕上げる。できた看板に大喜びの子どもたちであった。



保育者の援助と環境構成

子どもたちの周りにはたくさんの文字があふれています。平仮名への興味や関心はそれぞれ違います。それでも遊びながら「書いてみたい。」「平仮名読めたら楽しい。」と思う気持ちを大切に考えています。知っている子がいればさりげなく「教えるよ。」と、関わる姿も見られます。この後、お客さんがたくさん来たことは想像が付くことでしょう。お花を自分で摘めるのも、楽しそうでした。



日野警察 交通安全教室

日野警察署員の方に来園してもらい、交通安全の話を聞かせてもらっています。子どもたちにとって標識など絵表示があると分かりやすく、よく見て聞いています。「横断禁止」の標識です。周りを見渡せば標識がたくさんあります。なぜ標識があるといいのか、その標識にはどういう意味があるのか、分かりやすい言葉を使って話せば、子どもたちにも伝わります。

